

大宮公園サクラ活性化対策 サクラ除伐・更新計画

ーソメイヨシノとアカマツの風景を次世代に受け継ぐためにー



サクラ活性化対策の概要

■事業の背景

大宮公園は、「日本のさくら100選」に選ばれた桜の名所ですが、昭和60年代から樹勢の衰えが問題化し、平成16年度に学識経験者などからなる「大宮公園サクラ活性化対策検討委員会」を設けて、調査を行いました。調査の結果、数多く植えられたサクラ（ソメイヨシノ）が成長し競争状態となったため、日当たりや風通しが悪化、枝枯れや病虫害の被害を招いたことが明らかになりました。

■平成17年度～23年度サクラ活性化対策

サクラの競争状態を解消するため、平成17年度からモデル地区の間伐を開始しました。平成20年度の検討委員会でモデル地区の間伐の効果が確認されたため、自由広場全域にわたり間伐を進めました。サクラ活性化対策は、桜守ボランティアの方々と協力して、除伐木の選定、病虫害対策、土壌改良などを合わせて行い、その結果、園地は明るくなり、サクラの樹勢は回復しました。

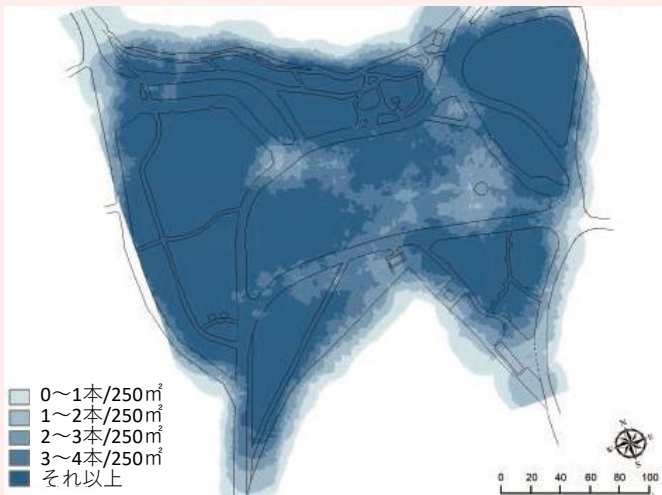
■令和5年度サクラ活性化対策

平成20年度検討委員会では、サクラは生きものであり、間伐後も成長し状況が変化することから、およそ10年毎に維持管理を見直すことが方針づけられました。そのひとつに大正末期頃に植えられた古木の管理があり、一般にソメイヨシノの樹齢が80年程とも言われるため、古木は診断を行いながら若木への更新も検討することとなりました。これに従い、今年8月に樹木医による診断を行ったところ、根元に空洞があり倒木の危険性が高いサクラが多数見つかったため、衰弱した老齢樹木の伐採と若木の植栽を順次進めることとしました。

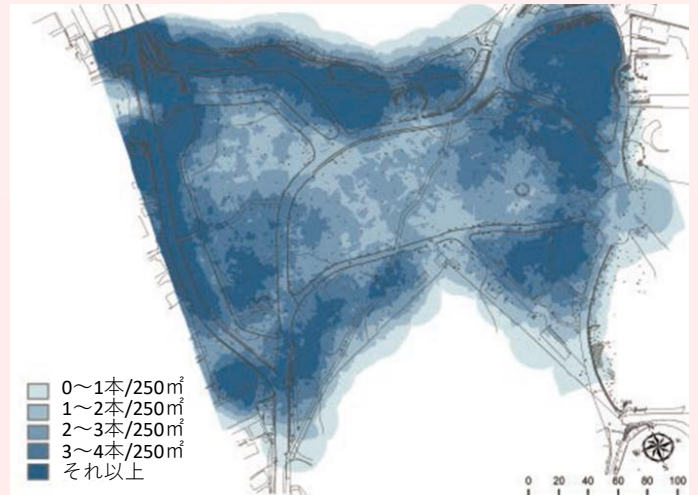
平成17～20年度に行われた間伐の効果

間伐前の平成6年と間伐後の平成20年の樹木密度を比較すると、平成6年に250㎡あたり3, 4本あった樹木が1～3本に減り、それに伴い、樹木の活力度も良好なサクラ（図中の活力A）が増えました。また、衰弱した樹木を間引いたことで、園地の見通しが良くなり、景観も改善しました。

間伐前（平成6年）



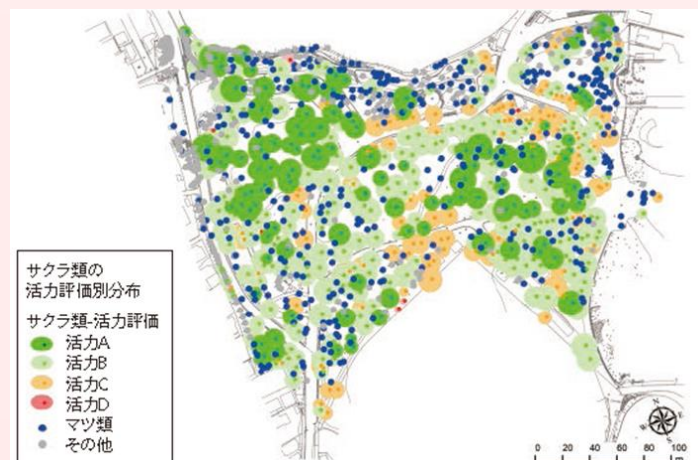
間伐後（平成20年）



間伐前（平成6年）



間伐後（平成20年）



間伐前



樹木が混み合い、衰弱した樹木も多く見られた

間伐後



衰弱した樹木などを間引き、樹木間の競争が緩和、見通しも良くなった

令和5年度調査で明らかになった問題状況

①老齢化による根元腐朽の進行

自由広場では、平成29年度に樹木全木を調査し、その中で異常が見つかった樹木について、再度令和5年8月に樹木医による診断を行いました。

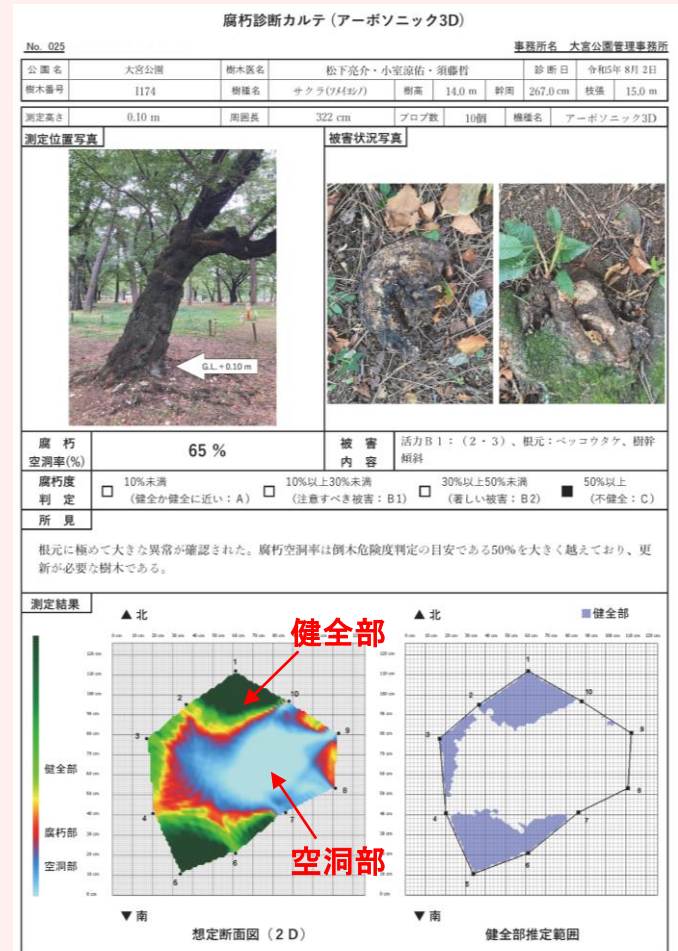
樹木診断では、根元が50%以上腐朽している樹木があることが明らかになりました。

右は、調査結果を樹木毎にまとめた精密診断カルテで、測定結果の図の水色部分は空洞部を示しています。

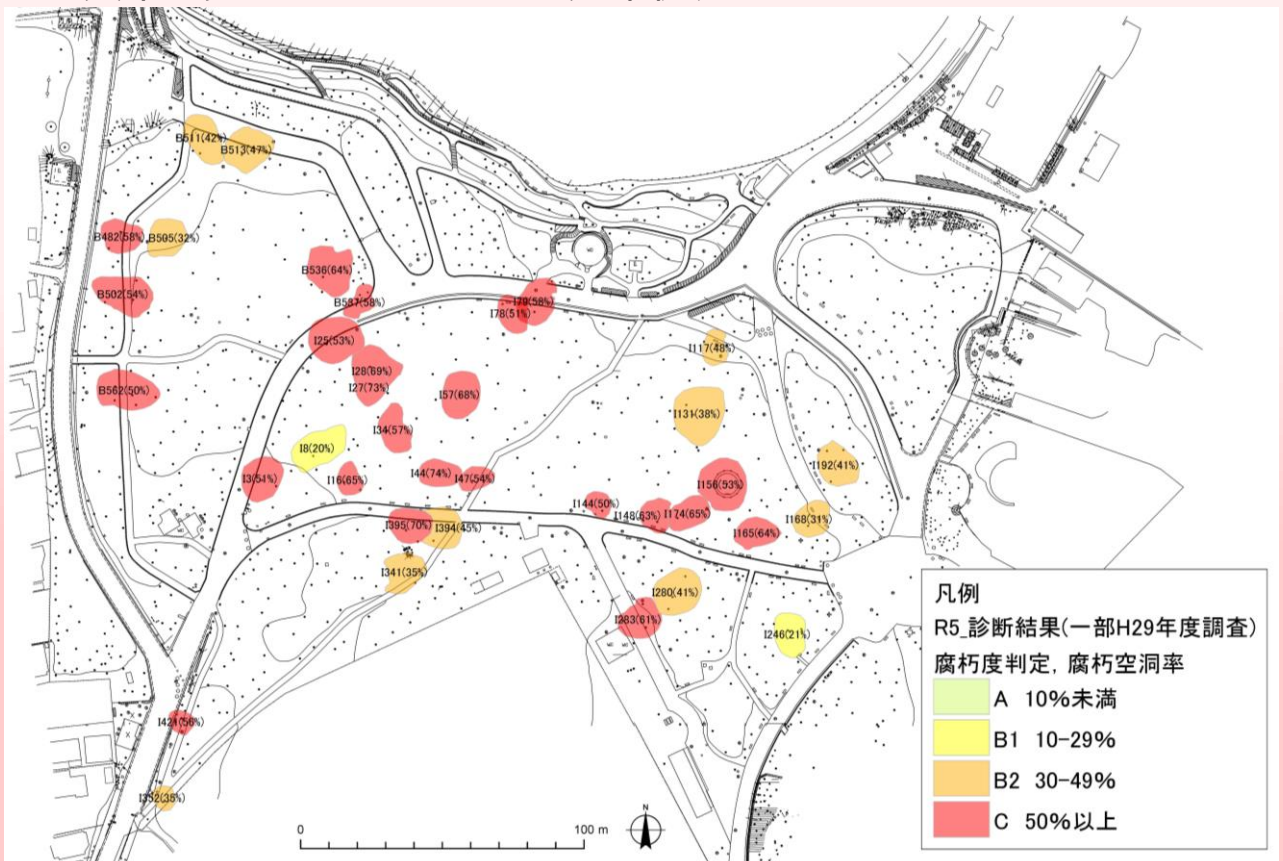
過去に見られた根元腐朽によるサクラの倒木（大宮公園、平成27年7月）



■ 樹木医による精密診断（令和5年8月）



■ 異常が見つかったサクラの分布状況



②樹木間の競争による衰弱木の発生

樹木の競合状態を把握するため、令和5年8月に空中写真撮影を行いました。

平成17年度から始めた間伐後20年近くが経過し、残したサクラがさらに成長して競争が生じています。枝が重なり、日当たりが悪化、衰弱した枝や樹勢が衰えたサクラが見られます。

■ 空中写真撮影による樹冠分布調査（令和5年8月）



自由広場の中央部は樹木が混み合い、森のようになっている



他のサクラの影になり、樹勢が衰えたサクラ



他のサクラと競争状態になり、枯れ込んだ枝が剪定され、樹形が著しく乱れたサクラ群

改善方針

樹木医による精密診断結果をもとに、サクラの専門家にも助言をいただき（令和5年9月）、個々のサクラの状況に応じて伐採か保存を決め、対策を進めることとしました。

■ 伐採し、若木へ替えていくサクラ

老齢化や他のサクラとの競争により樹勢が衰えた危険木、衰弱木は、除伐します。その上で、空間が広く空いたところには、更新樹として若木を新たに植えていきます。

大宮公園では、桜守ボランティアと協力し、大宮公園のソメイヨシノを親木として、苗木づくりに取り組んできました。これらの苗木を植樹していきます。



樹勢が衰え、回復の見込みがないサクラ



シダレザクラへ大きく枝を伸ばし、樹冠が競争状態にあり、かつ根元腐朽の大きいサクラ

■ 保存し、今後も活かしていくサクラ

根系が発達し、樹勢を保っているサクラは残し、周りを開いて日照条件を改善、土壌改良等も行って、さらなる樹勢回復を図ります。



上方の枝が衰えたサクラは、枝を切り詰めて落枝を防ぎ、樹形を整えて保存する



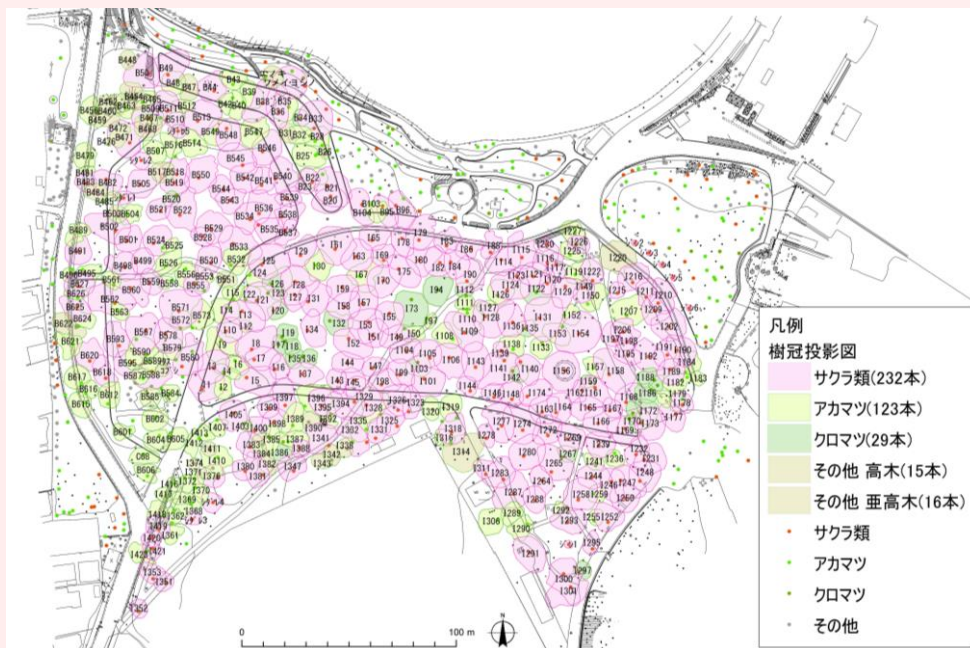
不定根が発達したサクラは、樹勢回復の見込みがあるため、保存し活用

今後の予定

園内の除伐は、サクラの衰退の度合いや緊急性に応じて、進めていきます。除伐予定木は、桜守ボランティアの方々と確認しながら、決めていきます。事業は、まずは樹勢の衰えが特に目立つ売店前およびシダレザクラ周辺ゾーンから開始します。

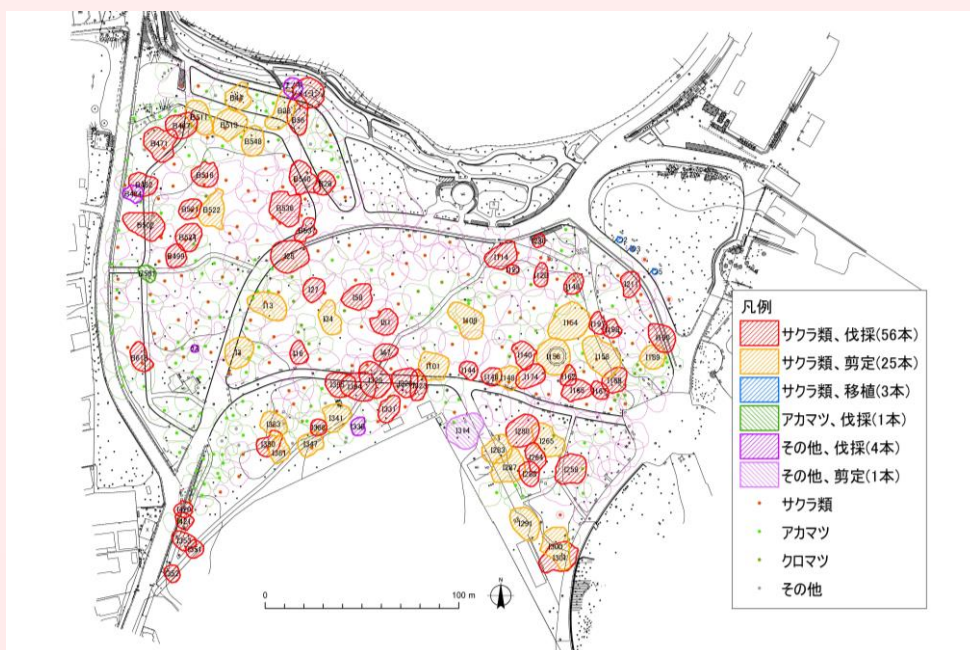
■現在の樹木分布

部分的に空地も見られるが、全体的に樹木の枝と枝が重なり、過密になっている。



■伐採・剪定計画

根元腐朽などの危険木、衰弱木を中心に除伐する。上方枝が枯れ込んでるサクラは剪定する。



■除伐実施後の樹木分布

除伐により樹木の競争状態が改善。空間が空いたところは、適切な密度で更新樹を植栽していく。

